

August 9, 2019

【前日の為替概況】ドル円、トランプ大統領のドル高牽制、米10年債利回り低下で105.90円へ

8日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続落。終値は106.07円と前営業日NY終値(106.27円)と比べて20銭程度のドル安水準だった。トランプ米大統領が「米連邦準備理事会(FRB)が他国に比べ、金利を高水準に設定していることがドル高につながり、偉大な米製造業が公平な条件で競争することを困難にしている」などと述べ、ドル高に不満を表明すると105.99円付近まで売られたが、ダウ平均が370ドル超上昇したこともありすぐに106.24円付近まで持ち直した。

ただ、米10年債利回りが低下に転じるとドル円は再び弱含んだ。ユーロ円の下落につれた売りも出て、4時前に一時105.90円と日通し安値を付けた。結局、NY市場に限れば106.00円を挟んだ狭いレンジ取引に終始した。

ユーロドルは下落。終値は1.1180ドルと前営業日NY終値(1.1199ドル)と比べて0.0019ドル程度のユーロ安水準だった。「独政府は気候変動対策で新規国債発行を検討」との報道が伝わると、独長期債が下落(独長期金利は上昇)しユーロ買い・ドル売りが活発化。トランプ米大統領のドル高けん制発言で、一時1.1232ドルと日通し高値を付ける場面があった。

イタリア連立政権を構成する「五つ星運動」と「同盟」との間の対立が深まる中、サルビーニ伊副首相(同盟党首)が「伊政府はもはや過半数ではない」「総選挙を実施する必要がある」などと述べるとユーロ売り・ドル買いで反応し1.1177ドルと日通し安値を付けた。

ユーロ円は続落。終値は118.59円と前日NY終値(119.02円)と比べて43銭程度のユーロ安水準。21時前に一時118.56円まで値を下げたものの、前日の安値118.44円がサポートとして働く買い戻しが優勢に。欧米株価の上昇に伴う円売り・ユーロ買いが出て119円台前半まで持ち直している。ただ、そのあとにはイタリア政局不安を背景としたユーロ売りで、一時118.49円まで弱含んだ。

【本日の東京為替見通し】ドル円、日本の4-6月期GDPと中国人民銀行「基準値」に要注目か

本日の東京市場のドル円は、8時50分発表の日本の4-6月期実質国内総生産(GDP)速報値と10時15分頃に中国人民銀行が公表する外国為替市場での人民元取引の基準値となる「中間値」に注目する展開となる。

ニューヨーク市場のドル円は、トランプ米大統領のドル高牽制発言で105.90円まで下落、シドニー市場では、米国がファーウェイと取引再開のライセンス決定を見送ったとの報道を受けて105.73円まで続落しており、本日は、中国側の報復措置に要警戒となる。

4-6月期実質国内総生産(GDP)速報値は、前期比+0.1%、前期比年率+0.4%と予想されており、1-3月期の前期比+0.6%、前期比年率+2.2%からの減速が見込まれている。予想を大幅に下回るネガティブサプライズとなった場合、7-9月期GDPは米中貿易戦争の悪影響からさらに減速する可能性が高まることで、消費増税の実施、延期に関する政府筋からの発言に要注目となる。

中国人民銀行が10時15分頃に公表する外国為替市場での人民元取引の基準値は、昨日は7.0039円と2008年以來の7元台となる「破七」だったものの、警戒されていた数字よりも元高だったことで、リスク回避が後退した。本日も、トランプ米大統領のドル高牽制発言に対する7元を巡る攻防に要注目となる。

豪ドル/ドルに関しては、本日は、8時30分からロウ豪準備銀行(RBA)総裁の議会証言、10時30分に豪準備銀行(RBA)四半期金融政策報告が公表されるが、追加利下げ観測を強める内容だった場合、豪ドル円の下落を通じて、円高要因となるため要注目か。

米国によるリスクシナリオは、2008年以來のドル・人民元の水準、2008年以來の米連邦準備理事会(FRB)の利下げ、1994年以來の中国為替操作国認定などにより、米財務省が2000年以來となるドル売り介入に乗り出す可能性となる。

最も成功したドル売り介入は、1985年9月の「プラザ合意」を受けた協調ドル売り介入で、ドル円は240円付近から120.25円まで半減した。協調ドル売り介入の金額は約100億ドル、当時の外国為替市場での1日の取引額は約5000億ドルだった。現在の外国為替市場での1日の取引額は約5.5兆ドルなので、プラザ合意と同様ならば、約1100億ドルのドル売り介入となる。

中国によるリスクシナリオは、世界最大の米国債保有国の中国が米国債売却に乗り出す可能性が挙げられる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 7月マネーストック M2 (予想: 前年比 2.3%)
- 08:50 ☆ 4-6 月期実質国内総生産 (GDP) 速報値 (予想: 前期比 0.1%/前期比年率 0.4%)

<海外>

- 08:30 ◎ ロウ豪準備銀行 (RBA) 総裁、議会証言
- 10:30 ◎ 7月中国消費者物価指数 (CPI、予想: 前年比 2.7%)
- 10:30 ◎ 7月中国生産者物価指数 (PPI、予想: 前年比▲0.1%)
- 10:30 ◎ 豪準備銀行 (RBA) 四半期金融政策報告
- 14:45 ◇ 7月スイス失業率 (季節調整前、予想: 2.1%)
- 15:00 ◇ 6月独貿易収支 (予想: 195 億ユーロの黒字)
- 15:00 ◇ 6月独経常収支 (予想: 217 億ユーロの黒字)
- 15:00 ◎ 7月ノルウェーCPI (予想: 前月比 0.6%/前年比 1.8%)
- 15:45 ◇ 6月仏鉱工業生産指数 (予想: 前月比▲1.4%)
- 16:00 ◇ 6月トルコ経常収支 (予想: 2 億ドルの赤字)
- 17:30 ☆ 6月英 GDP (予想: 前月比 0.1%)
- 17:30 ☆ 4-6 月期英 GDP 速報値 (予想: 前期比 0.0%/前年比 1.4%)
- 17:30 ◇ 6月英商品貿易収支/英貿易収支 (予想: 118 億ポンドの赤字/26 億ポンドの赤字)
- 17:30 ◎ 6月英鉱工業生産指数 (予想: 前月比▲0.2%/前年比▲0.2%)
 - ◎ 製造業生産高 (予想: 前月比▲0.1%)
- 21:00 ◎ 6月インド鉱工業生産 (予想: 前年同月比 1.5%)
- 21:15 ◇ 7月カナダ住宅着工件数 (予想: 20.35 万件)
- 21:30 ◇ 6月カナダ住宅建設許可件数 (予想: 前月比 1.5%)
- 21:30 ☆ 7月カナダ雇用統計 (予想: 新規雇用者数変化 1.25 万人/失業率 5.5%)
- 21:30 ◎ 7月米 PPI (予想: 前月比 0.2%/前年比 1.7%)
 - ◎ 食品とエネルギーを除くコア指数 (予想: 前月比 0.2%/前年比 2.4%)
- シンガポール (独立記念日)、南アフリカ (女性の日)、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

8 日 09:34 麻生財務相

「(米国の中国の為替操作国認定など)他国の政策にコメントしない」

「米中問題は貿易だけでなくいろいろと影響が出てくる」

「経済対策はすべてを勘案してやっていく」

8 日 10:13 ホークスピーーNZ 準備銀行(中央銀行、

RBNZ) 総裁補佐

「追加利下げが必要になる一定の可能性はある」

「マイナス金利は不要と予想するも、中銀は導入に対して完全にオープン」

8 日 23:43 トランプ米大統領

「FRB の政策でドルが非常に強くなることはうれしくない」

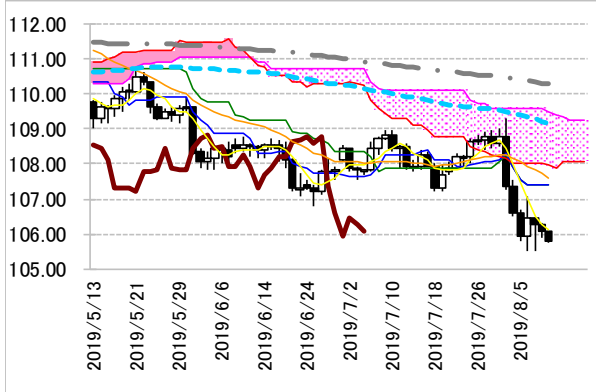
9 日 03:24 サルビーニ伊副首相(同盟党首)

「伊政府はもはや過半数ではない」

「総選挙を実施する必要がある」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

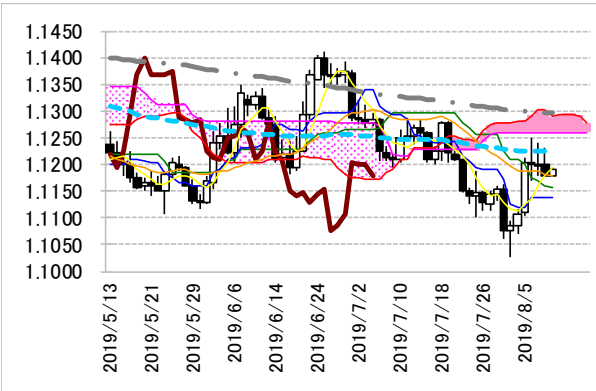


<ドル円＝転換線・基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線と同値だが、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。6日安値 105.52 円と 7日安値 105.50 円で「毛抜き底」の可能性が示唆されているものの、3手連続陰線「三羽鳥」で続落か。

本日は、転換線・基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	107.41(日足一目均衡表・転換線＝基準線)
前日終値	106.07
サポート 1	105.50(8/7 安値)
サポート 2	104.87(1/3 安値)

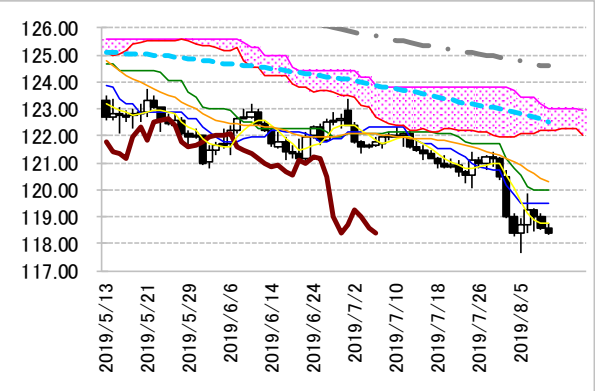


<ユーロドル＝雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。7日の高値圏での寄引同事線に続く陰線で下落トレンド再開の可能性が示唆されている。

本日は、雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上げた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1260(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	1.1180
サポート 1	1.1139(日足一目均衡表・転換線)

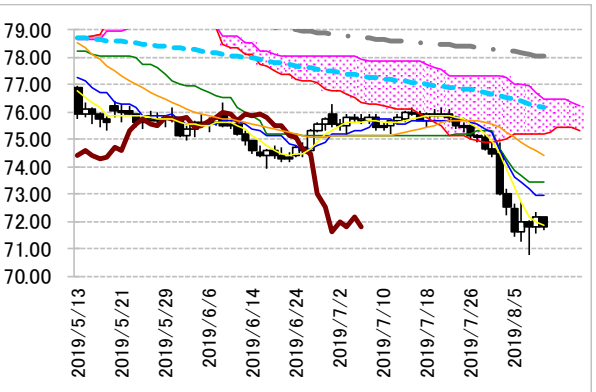


<ユーロ円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。6日の陽線を7日、8日の2手連続陰線で打ち消しており、続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上げた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	119.53(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	118.59
サポート 1	117.68(8/5 安値)



<豪ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。しかし、7月22日の寄引同事線から陰線新安値 10 手で下落しており、「新値 8 手 10 手は酒田の骨子」からは警戒域に入り、6日と8日の陽線で繰戻しの可能性が示唆されていることで要警戒か。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上げた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	72.97(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	72.16
サポート 1	70.75(8/7 安値)

5日線	21日線	90日線	200日線	---
イエロー	オレンジ	スカイブルー	グレー	
転換線	基準線	先行1	先行2	遅行
ブルー	グリーン	レッド	ピンク	ブラウン